

展開Ⅰ 学生の学びの具体性（一部抽出）

課題・回	学生のレポート	コメント
<p>1 換気と保温 第2回</p>	<p>患者にとっての換気と保温の重要性</p> <p>【学んだ内容】看護の第一原則は、屋内の空気を屋外の空気と同じく清浄に保つことである。新鮮な空気の入ってこない部屋の空気は淀んでおり、<u>たくさんの病原菌が存在している</u>。故にいかなる場合も、空気は常に屋外から、しかも最も新鮮な空気の入る窓を通して、採り入れなければならない。しかし、換気する際に患者の体を冷やしてはいけない。部屋の温度まで外気と同じに冷やす必要はない。清浄な空気が必要であると同時に、患者を冷やさない程度の室温の確保も必要だ。</p> <p>【自己の生活がどう見えてきたか】閉め切った部屋に病気が潜んでいるとは思わなかった。学校へ行く前に部屋の窓を閉める。学校から帰ってくるとムツとしていることが多い。朝食をとった後の食器がそのまま台所に置いてあるため部屋が臭い。すぐ窓を開けるが、アパートの部屋は窓が一つしかないため、新鮮な空気が余り入ってこない。『看護覚え書』には、臭いを取り除くのではなく臭いの元を取り除くことが重要だと書かれていた。これからは汚れた食器は片付け少しだけ窓を開けて学校に行こうと思った。冬は厚着して換気を行おうと思った。</p>	<p>（下線部註：ナイチンゲールは「腐敗」と表現している。）</p> <p>本科目は自己の生活を整える事に目的性がある。その意味で【自己の生活がどう見えてきたか】はよい。皆も、この様に実際にある事あった事を踏まえて、そこにどう学びが活かせるか…と考えてほしい。</p> <p>ただ、確かに換気は大切だが、「女性の一人暮らし」という条件では、留守時や睡眠時に窓を開放とはいくまい。小窓や換気扇の使用や安全な時に可能な限り開放するなど工夫が必要である。</p> <p>窓が一つという事だがドアや換気扇で風の道は作れないだろうか。…</p>